

会誌編集委員会 女子部

Number
11

卒業と入学

上智大学 高岡詠子

今年（2016年）3月で会誌編集委員会本会議メンバーを卒業しました。任期中、教育コーナー「ぺた語義」^{☆1}を立ち上げたのが一番大きな仕事だったかと思います。WG（ワーキンググループ）として定着させていただくまでに至りました。また、企画した弁護士特集がヒットし、それをきっかけに全国大会イベント開催を経て研究グループまで立ち上がることになりました。その間、会誌編集委員会への貢献をお認めいただき、学会活動貢献賞もいただきました。会誌編集委員としての思い出は本当にたくさんあります。今までありがとうございました。

これが最後のコラム記事になるかと思い、前々からこんな書き始めを用意していたのでした……が、EWG（教育分野のワーキンググループ）の編集委員は続けるということになり、そのようなわけでコラムは卒業しないのだそうです。みなさまこれからしばらくまたこの文章にお付き合いくださいませ。

6月からは教育担当理事に就任しました。会誌に執筆すると謝金がいただけるわけなんですけど、理事には謝金は支払えないということを初めて知りました。だからと言って書きたくないと言っているわけではありません。初めての理事会に出席して、会誌担当理事からの報告には、見慣れた会誌編集委員会本会議議事録が資料としてあげられていて、卒業後の同窓会誌を見ているような不思議な感覚を持つことができます。卒業はしたものの大学院に進学したようなそんなイメージでいたりします。

教育担当理事として最近一番わたくしの想いが強いのは、「小学生からのプログラミング教育」についてです。

私が大学院生だったころ、恩師の故中西正和先生は、夏休みに慶應義塾の付属の小中高の児童・生徒にいろいろなプログラミング言語を教える企画を実施し

ていました。研究室をあげてのイベントです。今でこそビジュアルな楽しめるプログラム言語が多くありますが、そのころはそういうものではなくて、タートルグラフィックスという点では唯一Logoがあり、小学生から高校生まで楽しんでいました。その他、C言語、Pascal、LISP、BASIC、Z80アセンブリ言語などを教えていたのです。自由に使えるコンピューター室などはなかったので、メーカーさんにコンピューターを借りて、大学の講義室に設置。一クラス5～6名の生徒さんに大学院生が1～2名講師としてつく形で3日間の講習会を行ったのでした。全部で40クラスとかあったときもありました。そのころはディスプレイも重いし、たしかノートパソコンなんてなかったと思うので、ケーブルをつないで環境を整えるのもとても大変でした。でも、何年か後に、実は昔、この講習を受けましたという学生が研究室に入ってきたりしたこともありました。現在は本当にいろいろなところでプログラミング教室がありますが、このころはほとんどなかったと思います。子ども科学館というところでLogoを教えるアルバイトをしていた記憶がありますが、そのほかにはあまりなかったのではないかと思います。

2011年に始まった「ぺた語義」、最初のうちは大学や高校のプログラミング教育の記事が多かったのですが、ここ2年くらいで小学生や児童向けのプログラミング教育の記事が増えてきていることから、小学生にプログラミング教育をするということに機が熟してきているように思います。もちろんクリアしなければならない課題はたくさんあります。現在でも、草の根的にいろいろなところで子どものためのプログラミングの講座やスクールなどが行われていて、それらをうまく統合することができればいいのでしょうけれど、本会の役割として、なんとかそういう枠組みを構築できればと思っている次第です。

☆1 無料で読める記事「教育コーナー」ぺた語義, <https://www.ipsj.or.jp/magazine/peta-gogy.html>